

# JGN全国大会（男鹿半島・大潟大会）参加レポート

所属 NPO 法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会

名前 市毛 三朗

このたびの助成対象となった JGN 全国大会について次のとおりレポートします。

1 大会期間開催場所

秋田県男鹿市

2 10/25 開会セレモ  
ー

地元高校生による司会進行は、この大会が十分な地元の教育界の理解のうで行われているという証の様で好感が持てました。「中学生による男鹿半島、大潟ジオパーク紹介」もユーモアに富んだ軽妙な進行で楽しく過ごせました。八郎潟の干拓は子どもの頃から言葉だけは聞いていましたが、今回が初めての訪問です。あの大きな八郎潟は一体どここの土で埋められたのかというのはぼんやりとした疑問でしたが、そうかそういうことだったのかと、恥ずかしながらやっと理解できました。私は千葉県に住んでいましたが、田沼意次の時代から印旛沼や手賀沼の干拓が図られていましたが、現地の地形は特に低地であるという印象はありません。一方、かつては東京湾の埋め立てが強力に進められており、陸地を作ること=埋め立てであり、埋め立て≠干拓という認識はありませんでした。そういえば印旛沼や手賀沼にもそのような大量の土砂を動かした形跡はありません。こんなことに改めて気がつくのもジオパークの面白さでしょうか。

ただ男鹿市開催なのになぜ男鹿市内の高校の生徒を起用しなかったのかという若干の違和感が残りました。

主催者挨拶

男鹿市長の「オがはかつて文化の中心であった」というメッセージに強い印象を受けました。日本海海運によって京の文化をはぐくんできたプライドを感じました。

基調講演ほか

秋田大学林信太郎教授のキッチンでの火山体験の実験は、大変興味深く拝見しました。パネルディスカッションは、教育現場ではそうかという感じでした。思えば「地学」という授業を受けた記憶はありますが、「どこでどんな事を学んだか」という事については全く記憶がありません。部活真っ盛りの頃、「地歴部」=「帰宅部」と言われていた時代のことです。南海トラフ地震を論じた図書の中で「高校における地学の地位の低下が指摘されて久しい。（中略）地学は命を守るための科学であることも忘れてはいけない。」という記述がありました。誠に肝に銘じておきたいと改めて感じました。

大交流会

1,000 人に及び参加者の交流会、主催者のご努力に改めて感謝申し上げます。

3 10/26 分科会

第9分科会「人の暮らしとジオを考える分科会」に参加しました。サブテーマは「黒曜石で人と地球の活動をつなぐ」として、明治大学の橋詰潤教授の基調講演の後、白滝、隠岐、姫島の事例が発表されました。白滝は、交流会で見聞しておりましたが、隠岐の事例発表は新鮮な思いがしました。全体としては、黒曜石がどこから産出されたかを確認する事ができる素材であること、そのために発掘された石器の解析によって人の流れが見えてくるといった興味深い内容でした。加工した黒曜石の石器を持って各地を歩く、物々交換の萌芽のようなものはなかったのか、もしかしたら商人のようなものが旧石器時代にいたりして、などとそんな夢も見たいものだと思います。

隠岐は後鳥羽上皇とか後白河法皇とかという歴史的ハイライトの舞台ではありますが、東京近辺に住んでいたときから、なかなか行くととなると甚だ億劫なところでありました。大陸と日本の狭間で独特の文化圏を形成していると言われていましたが、やはり黒曜石の流れの中で中国、近畿圏と交流があったという壮大な話で面白く聞かせていただきました。ただ発表者が、石材関係に従事しておられるようで、黒曜石を商売にしているわけではないという事を、必要以上に強調しておられるように感じましたが、一定の節度の中で大地の恵みを最大限に活用する事は、これはジオの趣旨のなかで当然の事のように感じますがいかがでしょうか。

閉会セレモニー

分科会報告の後、次回開催地挨拶という事で、あらためて様似町アポイ岳ジオパークが紹介され、北海道ブロックとして登壇しました。どんな形で当ジオパークが協力することになるのか分かりませんが身引き締まる思いが致します。

閉会式まで出席者が減らないというのは驚きでした。

ジオツアー出発

10/26

ジオツアーは「4 滝&奇岩クルーズ！」に参加しました。うすいピンクのタオルを首に出発です。西海岸の新しい地層を見学、その後ジオパーク学習センターで男鹿半島、八郎瀧の概要の説明を受けました。さらに寒風山に向います。激しい噴火を繰り返した歴史が嘘のような穏やかな山容ですが、相当に複雑な構造であることが説明されました。寒風山の景観を保持することと、自然の流れに任せることの調整の難しさは、どこにでもある問題ですが、ここでも相当に深刻なテーマであることが話されました。

山頂付近ではまれにみるような見事な夕焼けで、バスの方向が変わるたびに車内のメンバーは懸命にカメラを向けていました。ところが、寒風山の絶景を説明はするものの、そのような車内の反応をまったく無視した解説が続き、さらに山影の夕景の見えないところでバスを止め、延々と寒風山の説明は続けました。そして展望の開けた場所で停車したときには、

すっかり日は落ち、夕闇が迫っていました。

せっかく熱心な説明をして下さっているのに苦言を呈するのは甚だ心が痛みますが、絶景も大きな売りであるはずの寒風山で、幸運にもその最も美しいシチュエーションが目の前にあり、車内でも強く反応しているにも関わらず、予め用意した説明を続けることはいかかなものかと思いました。御本人を傷つけることは望むところではありませんので、ほかのガイドさんに趣旨を伝えましたが、少々後味の悪いツアーになってしまいました。当方のガイドさんにもぜひご意見を伺いたいと思います。

10/27

3 班に分かれて西海岸の観察です。入道崎から始まって 7000 万年前から直近に至る地層の説明を受けました。極めて複雑な動きを経た生成過程を半日で理解することは到底不可能で、あらためて勉強しなければと思った次第ですが、海上から眺める西海岸は想像以上に厳しく圧倒的な迫力で迫ってきました。私の班の船は小型だったために大棧橋や孔雀の窟など、ほかの班の中型船では入れない景勝地を間近に見ることができました。最後は大会パンフの表紙にあるゴジラ岩やグリーンタフ、対岸には鳥海山も姿を現し、大満足のエクスカージョンでした。



寒風山ではしゃぐ若者たち

